

第1回 自分ごと化会議in長岡京

～自分ごと化会議の意義と概要について～



一般社団法人 構想日本



伊藤 伸

- 1978年北海道生まれ。
- 2000年8月、衆議院議員秘書（京都事務所勤務）
 - 当時は同志社大学4年生。大学に行くのはゼミのみ。
- 2004年2月、参議院議員秘書（国会事務所）と構想日本の兼職
 - 8時から17時が秘書、17時から21時が構想日本。
 - 翌年4月から構想日本の常勤スタッフに。
- 2009年10月、内閣府行政刷新会議事務局参事官
 - 任期付の常勤国家公務員。いわゆる政治任用。事業仕分けを中心とした行政改革全般を担当。
- 2013年2月、内閣府退職、構想日本帰任
- 2013年9月～ 法政大学非常勤講師（「NPO論」）
- 2015年7月～ NPO法人「NPOサポートセンター」理事
- 2018年4月～ 法政大学大学院非常勤講師
- 2020年9月～ 内閣府 政策参与

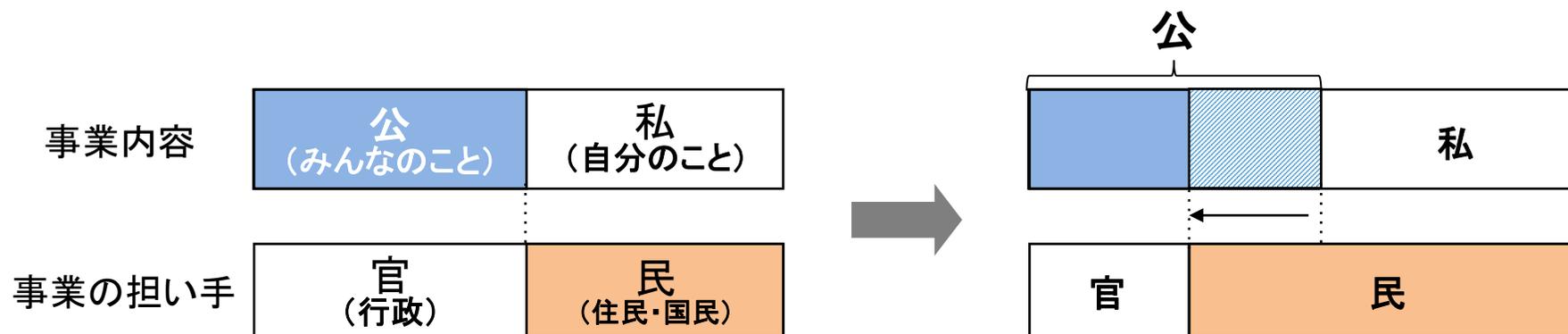
【審議会等】

外務省「ODAに関する有識者懇談会」会長、内閣官房行政改革推進会議「歳出改革WG」委員、館山市行財政改革委員会委員長、京都府与謝野町行革推進委員会会長など。

現在、年間60か所程度の自治体を訪問。

「他人ごと」 から

「自分ごと」 へ



「公共の利益（住民の利益）を「官（行政）」がすべて行う仕組みを見直し、住民自身が世の中を担っていく仕組みを作っていく。これが本当の民主主義。

(仮称)自治振興条例策定の基本的な考え方

「(仮称)自治振興条例※」策定における特徴 ※以降、「条例」と表記

1. 条例を作る「過程」を重視
 ~「無作為に選ばれた市民」と「地域活動で中心的な役割を担っている市民」がともに議論~
 条例の中身とともに、作るプロセスに幅広い市民が参加することはとても重要。
 そのプロセスを経ることによって、市民が行政や地域のことを「自分ごと」として捉えられるようになる。
2. 「べき論」ではなく現状把握からスタート
 「べき論」では議論が深まらず形式的になりかねない。
 現状把握(これまでどのようなことをしてきて現在はどうなっているのかなど)から議論をスタートする(行政は現状をいかに市民に伝えることができるかが重要)。
3. 「市民」「専門家」「職員」が一体となって実効性のある条例をつくる
 条例は作るのではなく実行することが目的。
 そのためには、「無作為に選ばれた市民」と「地域活動で中心的な役割を担っている市民」の議論を中心としながら、外部有識者と市民からなる「条例検討委員会」、そして職員が一体となって長岡京を考えることが重要。

条例策定で「無作為に選ばれた市民」と「地域活動で中心的な役割を担っている市民」を中心に位置付ける手法は全国でも先進的な試み。

自分ごと化会議

無作為で選ばれた様々な年代の市民を中心として
地域活動で中心的な団体や行政が共に議論を進める



条例検討委員会



地域団体等から招いた9名の市民
外部の専門家2名が共に議論を進める



外部委員：福嶋 浩彦 (中央学院大学教授・元消費者庁長官・元我孫子市長・構想日本理事)
中田華寿子 (アクチュアリ株式会社代表取締役・元スターバックコーヒージャパン執行役員・構想日本理事)

自分ごとと化会議in長岡京の概要

行政への市民参加の手法

これまで

公募方式

広報紙等で募集し、住民からの応募によって決める方法。

<特徴>

意識の高い人の声を聞くことができる一方で、利害関係者などが手を挙げ、参加者が特定の人に固定化する傾向。

推薦・一本釣り方式

団体からの推薦や首長の一本釣りで決める方法。

<特徴>

専門性の高い人や地域の有力者を選ぶことができる一方、毎回団体の長を選ぶことによる形骸化や参加者の固定化などの課題あり。

これから

公募方式

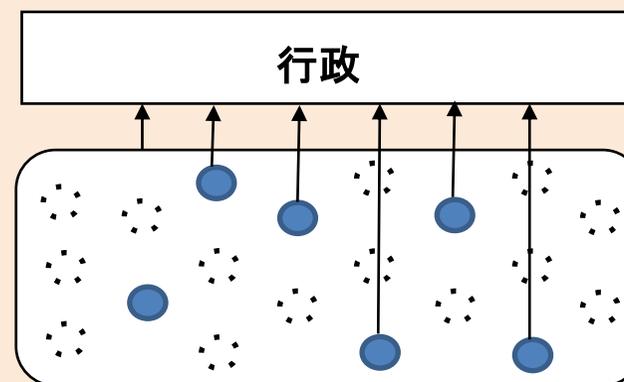
推薦・一本釣り方式

無作為抽出方式

無作為で抽出した市民に案内を送付し、その中の希望者が行政の取組みに参加する方法。

<特徴>

行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人など、広範な市民の参加を望める。



参加手法を一つ追加するだけで、市民と行政の距離が大きく近づく可能性。

自分ごと化会議in長岡京について

【目的】

- 条例を策定するにあたって、市の課題とその解決策や強みをさらに伸ばすための材料を出していく。
- 身近な問題を政治・行政任せにはせず、市民自らが長岡京や地域のことを自分事として捉えらえるようにする。

【基本的な考え方】

1. 参加する市民の選び方が無作為抽出

- 住民基本台帳から、無作為に抽出した市民(2,300人)に案内を送付し、応募のあった人が委員として参加する。

2. 地域の課題について、生活から見える現象をもとに市民間で議論

- 進め方のシナリオは一切作らない。参加する市民の発言から論点が生まれ、議論を発展させていく。
- 行政への批判ではなく提案するための議論になるよう、外部の人間がコーディネーターを務める。コーディネーターは安心して議論できる環境を作る。

3. 「個人でできること」「地域でできること」から考える

- 行政への要望に終始するのではなく、課題解決のために自分たちでできることから考える。
- 「言いつぱなし」で終わらないように、参加者は具体的な課題とその改善策を記入する。

市民の生活実感が議論の入り口
「何をすべきか」ではなく「自分はどうか」の議論

改善提案シート

改善提案シート

第 分科会

名前:

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

<p><例></p> <p>公園が利用されていない</p>	<p>(住民の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備のサポートをする 休憩用のベンチを提供する
	<p>(行政の役割)</p> <p>まちの中にある遊び場のマップを作成する</p>
	<p>(その他)</p>

あなたが考える現状の課題

その課題を解決する方法

自分ごと化会議において議論をする中で参加委員が考えた現状の課題を記載。

	<p>(住民の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人としてできること 	<p>自助</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域としてできること 	
	<p>(行政の役割)</p>	<p>公助</p>
	<p>(その他)</p>	

その課題を解決するにあたり、個人、地域、行政それぞれが取り組むべきことを記載。

参加者の役割

①自分ごと化会議in長岡京メンバー

4つの班に分かれ、それぞれのテーマについての現状を把握し、普段の生活から感じることなどをもとに市民間で議論する。議論しながら感じたことを「改善提案シート」にまとめる。最終的には自分ごと化会議として提案書をまとめ、条例策定の起点となる。

②コーディネーター（進行役、構想日本が選定）

各班の議論の進行役および論点整理、必要に応じて論点の提示、事実関係の確認などを行う。

③プロジェクトチーム（条例検討プロジェクトチーム（市職員））

部局横断的に各班2～3名ずつ選出。毎回会議に参加し、一参加者として議論に加わる。

④各テーマ関連の担当課

それぞれの班のテーマに関係する職員が、テーマの現状や行政の取組みなどについて説明し、必要に応じて自分ごと化会議委員やコーディネーターからの質問に対応する。

⑤事務局（自治振興室）・協働ワーキング（市民参画協働政策研究会）

全体の進捗管理、構想日本との連絡調整

⑥条例検討委員会

自分ごと化会議の「提案書」を受けて「条例等たたき台」を作成。自分ごと化会議で「条例等たたき台」の解説を行い意見を聴取、それをふまえて「条例案」を作成する。

共通テーマ：地域団体の役割と連携

《課題例》

「自治会と地域コミュニティ」や「行政と自治会、行政と地域コミュニティ」の連携や情報共有をどう進めるか。

第1分科会：環境保全

コーディネーター：伊藤 伸

- ・ 構想日本 総括ディレクター
- ・ 内閣府 政策参与

《課題例》

- ① 道路や水路、公園等の美化をどのように進めるか。
- ② ごみステーションの管理をどのように考えるか。

第2分科会：防災・防犯

コーディネーター：高澤 良英

- ・ 千葉県市原市 企画部 部長

《課題例》

- ① 不審者の危険や空き家の増加など防犯上の課題にどう対処するか。
- ② 地域防災の仕組みをどのように充実させるか。

第3分科会：高齢者

コーディネーター：石井 聡

- ・ 神奈川県逗子市 市民協働部 次長

《課題例》

- ① 増加する一人暮らしの高齢者を見守る仕組みをどのように築くか。
- ② 交通不便地域で高齢者の足をどう確保するか。

第4分科会：こども・子育て

コーディネーター：道官 文晴

- ・ 香川県三木町 子ども福祉課 副主幹

《課題例》

- ① 子育て世代がお互いに繋がり相談し合える環境をどのように築くか。
- ② 子どもの登下校時の安全をどのように確保するか。

自分ごと化会議in長岡京のおおまかな流れ

無作為に抽出した市民にアンケートの送付

- 住民基本台帳から2,300人（18歳～80歳。地区を考慮）を抽出・送付し応募者68人が委員となる。

<第1回> 自分ごと化会議の趣旨説明 テーマの現状把握(把握)

- 会議の趣旨や市の現状・主な取組み状況を共有
- 自己紹介、テーマに沿って参加者の身近な疑問や課題を共有

【目標】

市の現状や地域の課題を共有する。

<第2回・第3回> テーマについての議論 (発散)

- 第1回で共有した現状を踏まえ、委員が日常生活で感じる課題やその改善策などを議論する。
- 議論した内容を最終的に「改善提案シート」に記入する。

【目標】

多様な論点を出す。

<第4回> 自分ごと化会議として 意見のとりまとめ(集約)

- これまでの議論を「提案書案」として整理し、さらに議論を深めて集約につなげる。
- これらをまとめたものが自分ごと化会議としての「提案書」となる。

【目標】

自分ごと化会議として共有できる内容を決める。

自分ごと化会議の「提案書」をふまえ、条例検討委員会で「条例等たたき台」を作成。

<第5回・第6回> 条例等たたき台を議論し共有する

- 条例検討委員会から委員を招き、委員会が策定した「条例等たたき台」を共有する。
- 自分ごと化会議での議論の要素が盛り込まれているか確認する。

【目標】参加者の納得感を高める。

自分ごと化会議の意見を「条例等たたき台」に反映し、条例検討委員会で「条例案」を作成。

<第7回> 条例案を確認し共有する

- 最終的に完成した「条例案」を確認し、共有する。

【目標】条例等施行後の活用をイメージする。

(仮称)自治振興条例の策定イメージ

自分ごと化会議
(4回)
R2.12月～R3.4月

条例検討委員会
(4回)
R3.4月～R3.7月

自分ごと化会議
(2回)
R3.9月～R3.10月

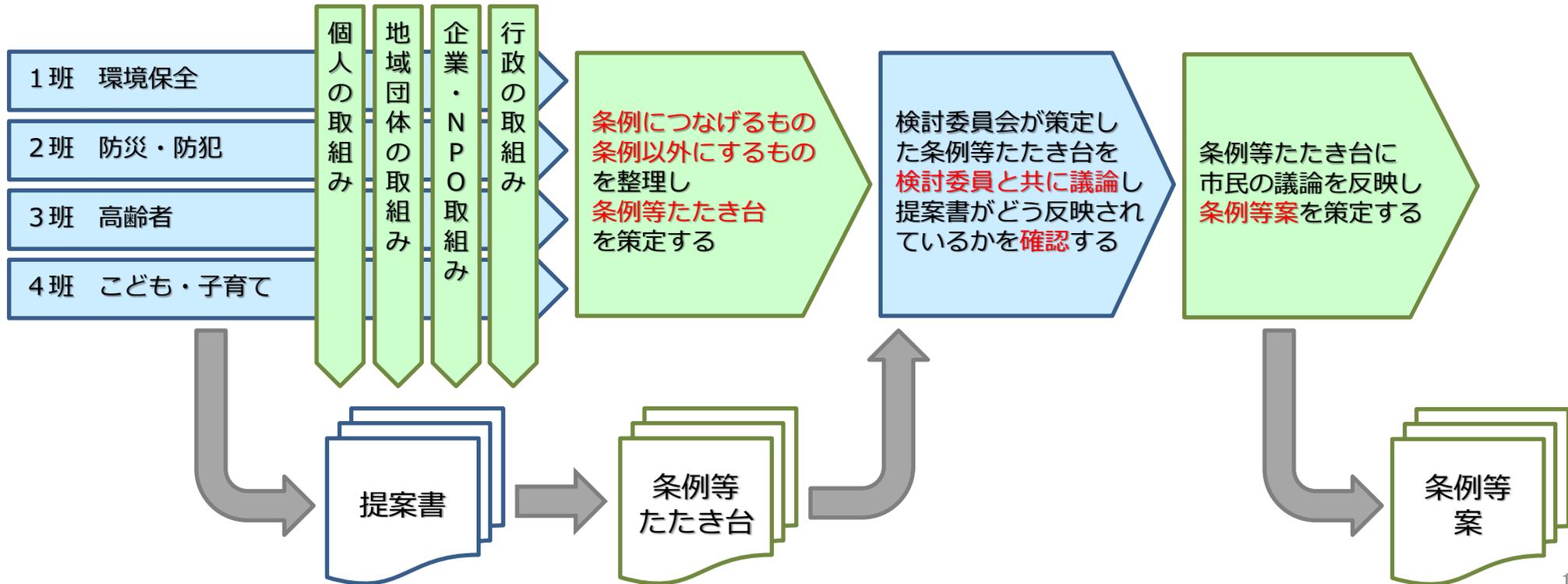
条例検討委員会
(2回)
R3.11月～R3.12月

各班のテーマに沿った課題を発散し、課題の解決に必要な ①個人の取組み、②地域団体の取組み、③民間（企業・NPO）の取組み、④行政の取組みを示した「提案書」を作成する。

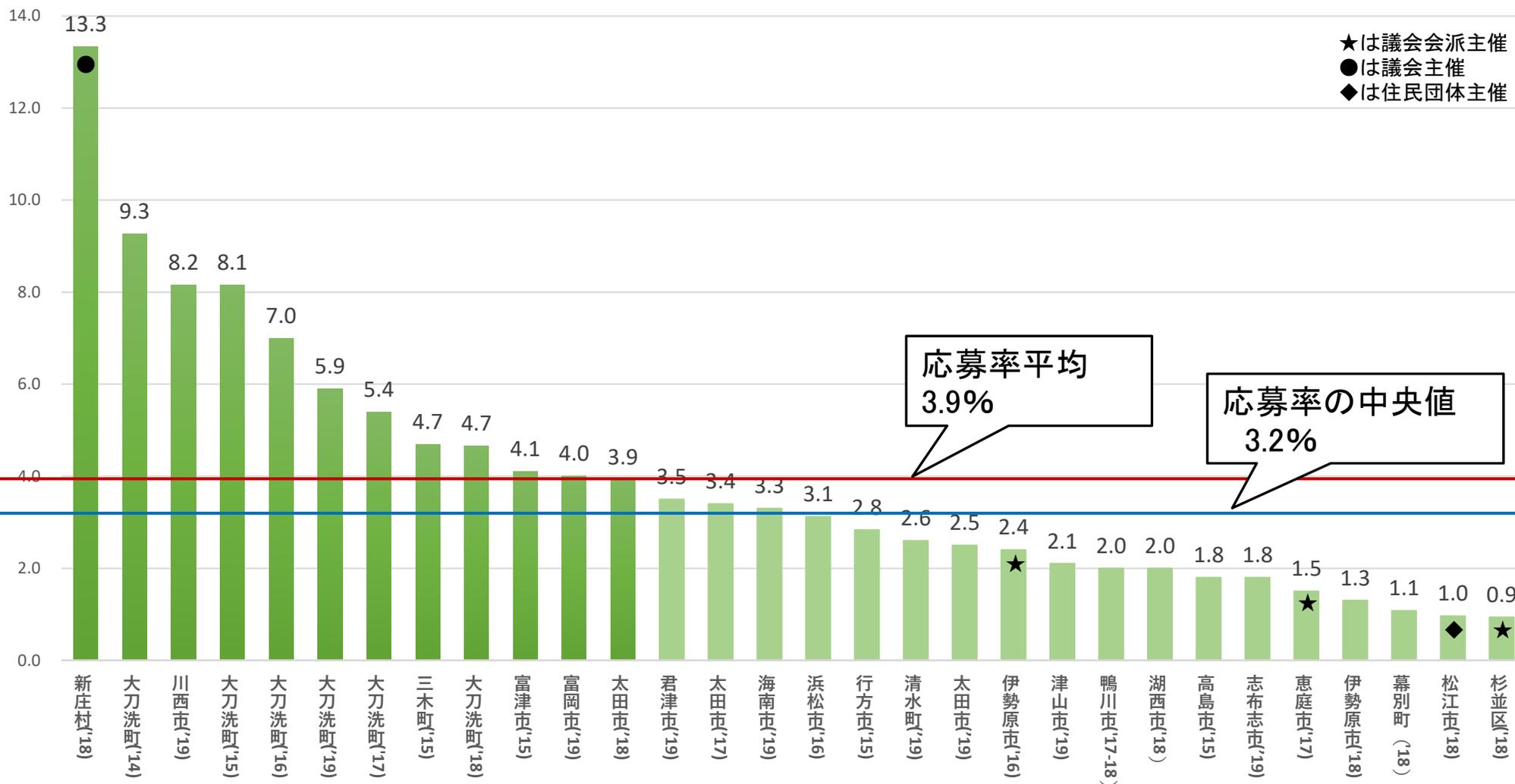
自分ごと化会議で作成した「提案書」を整理（各班の横串を通す）し、条例につながるもの、条例以外にするものを整理し、その条例等たたき台を策定する。

条例検討委員会が策定した条例等「たたき台」を検討委員が解説のうえ共有する。自分ごと化会議の「提案書」が「たたき台」にどのように反映されたか確認する。

自分ごと化会議で議論・確認した条例等「たたき台」を市民の意見をふまえ、条例等案を作成する。



無作為抽出による応募率



自治体による応募率の差が大きい。今回は2,300人を抽出して68人の応募 (応募率3.0%)

無作為抽出参加住民の「その後」

<OB・OG会の結成>

- 大刀洗町

これまで6回住民協議会を実施しOB・OGが約200名。その人たちがOBOG会を結成し、定期的に勉強会や懇親会を開催(2018年には町議会を「招待」して「若者と政治」をテーマに実施)。案内状の送付や会場設営などすべて住民が行っている。参加住民が一体化されていることが特徴。

- 川西市

「歴史・文化の活かし方」をテーマに議論した市民の有志が、会議終了後数か月で「まちの宝物サポート隊」を結成。議論の中で出ていた「楽しく学ぶ」ことを具現化するため、「かわにしかるた」を作成(コロナ禍の重要な遊び道具として多くのメディアに取り上げられる)。現在もLINEグループを作って情報共有。

<個人の変化>

1. 協議会に参加して以降、地域のことを「自分事」として考えることの必要性を感じて、自分が住む地域の「女子会」(勉強会)を結成。(富津市、40代女性)
2. 学校への関わりが必要だと感じ、PTA会長の選挙に立候補、就任。(大刀洗町、40代男性)
3. 行政の仕事に関心を持ち、公務員採用試験を受験。(大刀洗町、20代女性)
4. 協議会に参加したことで、心の病を患った自分の経験を活かせることもあると感じ、子育ての悩み相談に関するサークルを立ち上げた。(太田市、30代女性)
5. 参加していた市民の有志(もともと知り合いではない)で地域のことを考えるためのNPO法人を結成。

「自分ごと化」の先の行動の変化も起きている。

自分ごと化会議in長岡京 アンケート結果（概要）

アンケート（調査概要と回答結果）

1. 調査対象 : 住民基本台帳から2,300人(16歳～80歳)を無作為に抽出

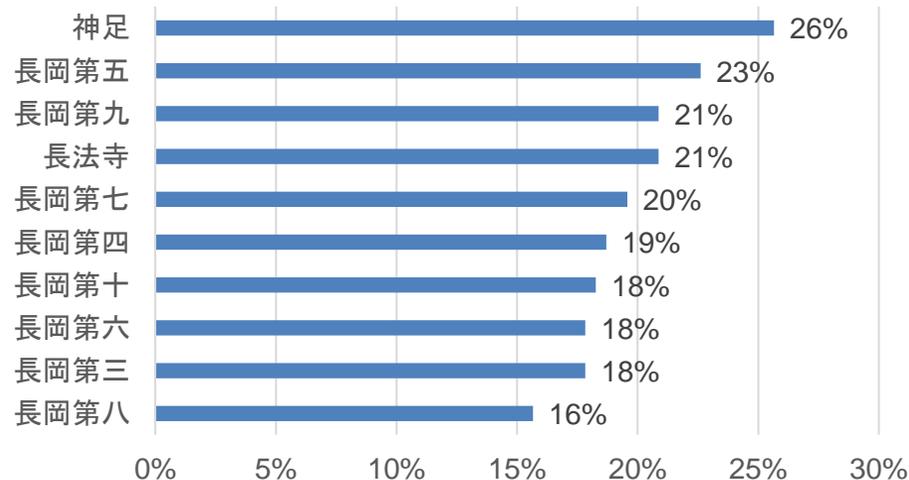
2. 調査時期 : 令和2年10月20日～11月6日

3. 回答結果 : 507件(回答率22%)

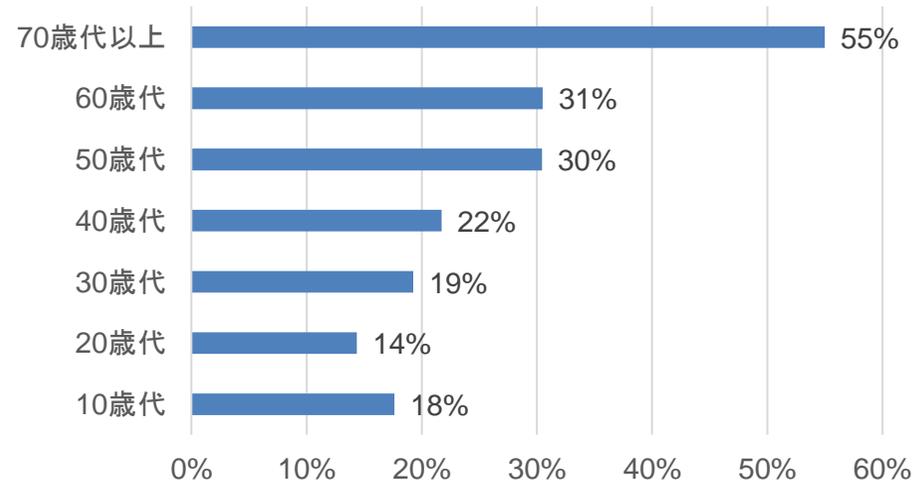
4. 回答者の属性

- 各小学校区の回答率に若干の差が生じた。
神足では多くの方が回答している一方で第八での回答は少なかった。
- 年齢別の回答率に大きな差が生じた。
ご高齢の方の回答率が高く、年齢が下がるにつれ回答率も下がっている。

校区別回答率



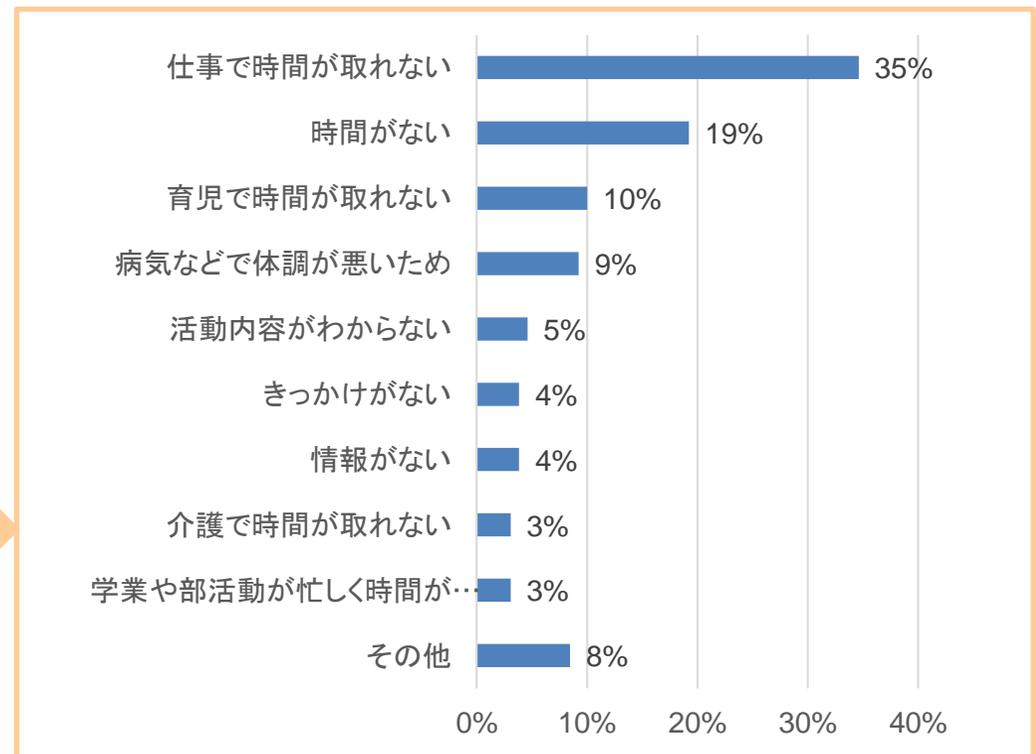
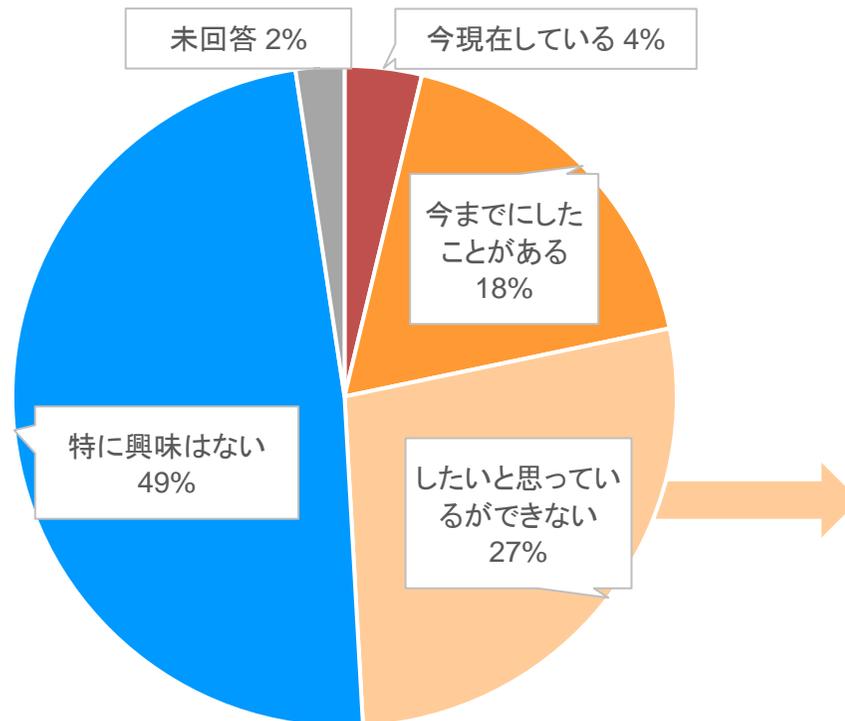
世代別回答率



アンケート 1

設問1. 今までに、地域の課題解決や困っている人のために 地域活動やボランティアなどをしたことがありますか？

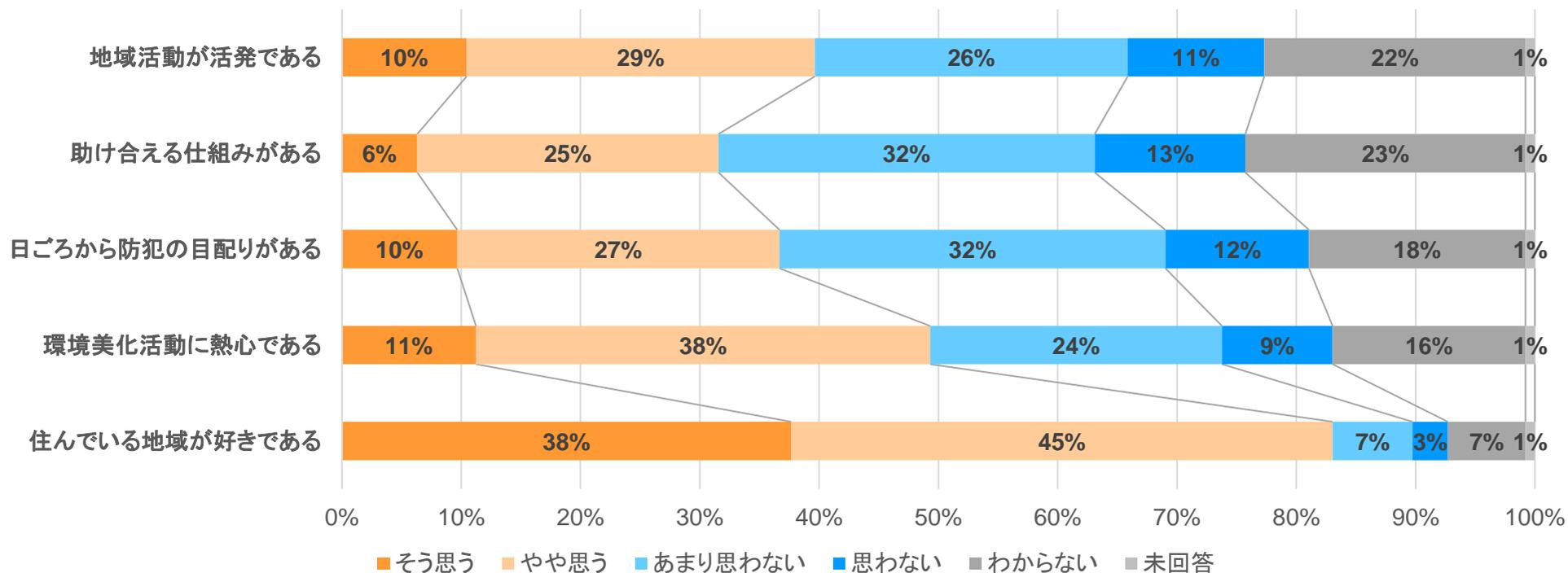
- 今現在活動している人は、とても限定的(4%)
- 右下図は「したいと思っているができない」と回答した方について、その理由を聞いたものだ。その多く(35%)が「仕事で時間が取れない」(35%)と回答しており、「時間がない」「育児で時間が取れない」を含めると64%に達する。



アンケート2

設問2. 回答者の居住地に関する質問

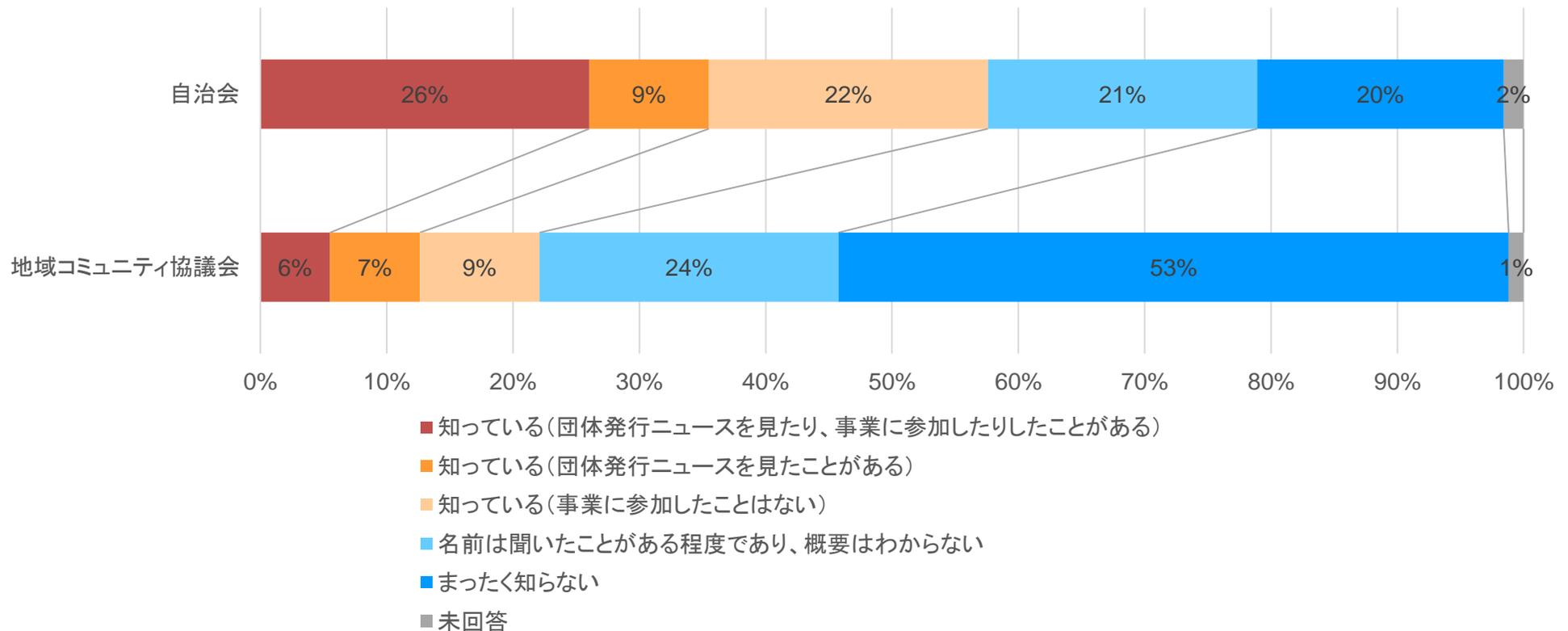
- 回答者の居住地における「地域活動の活発さ」「助け合える仕組み」「防犯の目配り」「環境美化の熱意」について、どのように感じているかを聞いたところ、相対的に「環境美化の熱意」が高く、「助け合える仕組み」が低い結果となった。
- 「住んでいる地域が好き」かの質問に対し、「そう思う」「やや思う」と答えた方の割合は、83%と非常に高い。



アンケート 3

設問3. 「自治会」「地域コミュニティ協議会」の認知度に関する質問

- 自治会を「知っている」と答えた人は、全体で57%となる。
- 地域コミュニティ協議会を「知っている」と答えた人は、全体で22%となる。
- 自治会に比べ地域コミュニティ協議会の認知度は低い。



アンケート4

長岡京市から連想するキーワード

- 上位3位は「たけのこ(竹林)」「長岡天満宮(キリシマツツジ)」「細川ガラシャ(ガラシャ祭)」であり、全体の40%を占めている。
- 「住みやすい」や「交通が便利」、「自然が豊か」「のどか(平和)」などのポジティブ要素が上位に来ている。(右表橙線)
- 一方で、マイナス要素は少なく、上位20位以内には「行政サービスが悪い」「道がせまい」の2つである。(右表青線)
- 他自治体のキーワードの上位には、「魅力がない」「交通不便」「人口減少」「少子化」「財政難」「働く場所がない」など、多くのマイナス要素が上位に来る中で、今回の結果から、多くの市民の方が長岡京に愛着を持っており、快適に生活していることが窺えると言えるのではないか。

